

◆平成28年度 (第42回)

静岡県専修学校バレーボール大会

男子バレー部監督 鈴木 正章

昨年度復活した中村学園男子バレー部が、成長を見せるための大会でした。昨年同様、他のチームに比べ、経験者がほとんどいない状況での戦いでしたが、昨年度のメンバーが成長を見せ、勝利まであと一息という状態でした。レシーブ面では良い面も見られ、あきらめずに最後までボールを追う姿は、きっと来年度への勝利へとつながる事でしょう。

まだまだ基礎的な部分や、サーブ力、スパイク力に課題があります。ほとんどのメンバーは来年もチャンスがあります。ひとつひとつのプレーに磨きをかけ、来年こそ勝利をつかめるよう精進しましょう。

主将 総合福祉学科 2年 後藤 淳貴

私が主将になって、初めての専門学校県大会に出場させていただきました。昨年は未経験のクラスメイトと共に、先輩の足を引っ張らないよう練習に打ち込んできましたが、試合では結果を残すことができませんでした。先輩が卒業し部員が減り、練習メニューにも制限がありました。そんな中4月には1年生が入部してくれたため、試合形式の練習を行うことができるようになりました。

先輩から引き継いで1年、まず声を出すことをモットーに基礎練習と、チームの連携を高める練習をしてきました。練習を重ねるにつれ、チームの士気も上がり、成長を実感することができました。試合では、練習で身に着けた連携プレーや、声を掛け合うことができ団結力が生まれました。

この大会の経験から、改めて仲間の大切さを感じ、主将としての責任感が身に付きました。来年は私たち2年生は最後の大会になります。また1年間仲間で切磋琢磨し来年こそは勝てるよう、充実した部活動にしていきます。最後に、校長先生を始めお世話になった先生方、応援してくださいました先生方、クラスメイトの皆さん、ありがとうございました。



女子バレーボール部 監督 原木 伴美

コーチ 原 佐音美

女子バレー部の皆さん！大会お疲れ様でした。

今年は例年より早く練習を開始することが出来ましたが、メンバーがそろうことができたのは大会前数回でしたが、その中でも練習中メンバーで意見を出し合いながら内容の濃い練習は出来たと思います。試合中はキャプテンをはじめ上級生が中心となって、頑張ってくれました。残念ながら順位は落としてしまいましたが、今回の大会が最後だった上級生は、バレー部の活動を通して得たものを、これからの生活にも是非活かしてください。下級生は来年、今年のリベンジに向けて頑張っていきましょう！！

最後になりましたが、応援してくださいました校長先生をはじめ諸先生方、学生の皆さん。応援、ありがとうございました。

主将 医療情報秘書科 勝亦 瑞希

私たち女子バレー部は3年生1人、2年生4人、1年生5人で大会に向けて原先生、原木先生、鈴木先生のご指導のもと練習を重ねてきました。昨年よりも早く練習を始め、週1回という短い時間でしたが男子と試合をしたり、先生と一緒に練習したりしとても楽しく、チームの絆も深めることができました。なかなか人数が揃うことがなく不安なこともありましたが、しかし最後は10人で3位という結果を残すことができました。昨年は準優勝で順位を下げたので、優勝することもできなくて悔しかったので来年は優勝目指して頑張りたいです。

バレーボールを通じて学年関係なく楽しむことができ、学生生活最後によい思い出を残すことができました。校長先生を始め先生方学生の皆さん応援ありがとうございました。



11月の行事



- 1日(火)2TW・CW 第4期実習(～11/19)
- 3日(木)文化の日
- 4日(金)漢字検定
- 10日(木)オープンキャンパス 17:00-18:30
- 11日(金)硬筆書写検定
- 14日(月)実務者研修「介護過程」スクーリング
- 15日(火)国試「セミナー③」9:30～17:00
- 16日(水)3CP メディックファーストエイド(～18(金))
- 19日(土)第2回入学選考
- 23日(水)勤労感謝の日
- 24日(木)J検 CBT
- 28日(月)3TW 第6期実習(～12/25)
電子情報海外研修修学旅行(～12/3)
- 29日(火)介護職員初心者基礎研修
実務者研修「医療的ケア」スクーリング
- 30日(水)実務者研修(6月開講)修了式 9:30

12月の行事

- 3日(土)オープンキャンパス 13:15～
ビジネス文書検定
- 4日(日)B検
- 5日(月)1CP 保育実習 I(保育所)事前研修
- 8日(木)MIS 卒研発表会
- 9日(金)オープンキャンパス 17:00～
- 14日(水)福祉医療2年海外研修修学旅行(～18)
- 15日(木)J検 CBT
- 17日(土)第3回入学選考
- 22日(木)防災訓練・大掃除 (PM)



◆平成28年度学生募集・入学選考

オープンキャンパスのご案内

企画広報室 高橋 達也

皆さん、こんにちは。早いもので今年も残すところ2か月となりました。年のはじめに今年の目標を立てた人もいると思いますが、達成できましたか？卒業年度の皆さんは、就職活動や卒業研究など忙しく過ごしているかと思います。悔いの残らないよう、残りの学生生活を精一杯過ごしてください。

さて、企画広報室では皆さんの出身高校への訪問など、年間を通じて様々な活動を行っています。みなさんの後輩へ本学の魅力を様々な形でお伝えしていきますので、ぜひ広報室に遊びに来て、学校生活や実習の話などいろいろとお話を聞かせてください。皆さんの経験談は高校生たちの進路選びにもきっと役立つはずなので、皆さんの母校を訪問した際には先生方や後輩たちにお伝えしていきます！

また、今年度の入学選考も第一回を終え、皆さんの後輩となる方々が続々と決定しています。ステップアップレッスンなどで入学予定の高校生が来校する機会が増えますが、校内で高校生を見かけた際は温かく声をかけてあげてください。きっと励みになると思います。皆さんも経験したことがあると思いますが、高校生にとって「先輩と触れあえる」ということは、とても嬉しいことです。人の印象は第一印象で決まると言われています。皆さんの明るい笑顔と挨拶で学校への好感度も倍増すること間違いなしです。元気の良い挨拶で学校を盛り上げていきましょう！

◆動き出す、次年度 就活。その「成功の3カ条」

進路室長 橋野 幸男

10月1日(土)は、経団連『採用選考に関する指針』上の「採用内定」解禁日でした。多くの企業等が、同日付で「内々定」から「内定」に切り替える通知・手続を行ったり、翌週にかけて「内定式」を開催したりしました。また、9月下旬には、今年度の採用活動・就職活動に関する「総括」が各機関から発表されています(「進路部会」で紹介しました)。

これに先立つ9月12日、経団連・榊原会長は記者会見で、次年度の採用選考スケジュールについて、「今年の対応を維持し、採用選考に関する指針や手引きの変更は行わないこととした」と発表しました(それぞれの解禁が、「広報」3月→「選考」6月→「内定」

10月と、今年度と同じ日程に)。

これを受けて、次年度就活予定学生へのアドバイスが新聞やWeb上で発信されています。例えば、「日本経済新聞」9月26日の『さあ就活、早めが大事』では、「就活成功の3カ条」として、次の3つを掲げています。

- ① 早めの動きだしが肝心
- ② インターンシップで選考慣れを
- ③ 説明会はエリアを固めて効率よく

一方、企業側の動向については、「日経産業新聞」10月4日の『内定式の次はインターン。採用の仕事、通年化』が印象的でした。一部を抜粋すると、

「... 人事担当者に安息はない。3月から始まった約半年間の採用活動が一段落しても、各社は今年冬のインターンシップ(就業体験)の募集を始めており、採用活動は『通年化』の様相を呈している。...インターン参加者選抜のためにエントリーシートの提出を義務付け、更に面接をする企業も増えている。学生の間では『インターンは就活の一環として欠かせない』との認識が強まっている。インターン参加者を面接解禁前に呼び出し、事実上の選考をしている企業も少なくない。...」

ここ静岡でも、10月2日(日)、次年度就活生向けに「静岡新聞・新卒のかんづめ2018」主催・『1日 仕事勉強会』が開催されました(参加企業50社。午前中は業界セミナー、午後からは企業との交流会、各種質問コーナー、等)。開始時点で参加学生は約200人、午後から参加という者も多数見かけました。

同時開催の「就活生の保護者向けセミナー『就活&地域企業勉強会』」に、今年も参加してみました(静岡市主催、静岡新聞社受託・運営)。定員30人に対して、50人という盛況。長崎一朗氏(キャリアカウンセラー)の基調講演では、今年度のキーワードとして「冬のインターンシップ」(従来の“夏の”と対比)が強調されました。「就業のフル体験 = 会社で“正社員”として働く経験」としての意義(“アルバイト”との対比)、「本選考でアピールポイントになる」というメリット(「エントリーシート」の設問に、『(当社の)インターンシップに参加しましたか。何を学びましたか』が)、更には、「業界セミナー」などインターン以外にも積極的に参加し、「仕事の実際」の理解を深める、等などの内容でした。

そういえば、本年度に関する「総括」の一つ、しずおか産学就職連絡会・(公財)就職支援財団「2017年3月卒者『新卒者採用に関する進捗調査』集計結果報告」(県内企業対象。9月23日公表)に

は、「前年よりも応募者数が増加した企業の分析」という項目があります。増加企業はそうでない企業と比べて「インターンシップの実施率が高い」、「選考スケジュールを『前年よりも早めた』割合が高い」という傾向が見られた、との指摘がなされています。

また、今年度、電子情報の「早期 内定獲得」学生を見ると、インターンシップ(東京)に複数回参加した、最新技術動向のイベント(横浜)を見学した、早い時期から「合同企業セミナー」に参加し企業研究のうえで志望企業を絞っていった、という特徴があります。

実は、リーマン・ショック前の就活好調時にもインターンシップが話題になったことがあります。当時、4年制学科の担任(3・4年次)でしたが、その学生たちは、地元鉄道会社のインターンに1名(「エントリーシート」での選考あり。グループ企業の1社に、チームで企画提案を行なう、という内容。静岡新聞の取材があり、その学生を含むディスカッションの様子が記事・写真掲載された)、首都圏の流通業に3名、同・サービス業に1名が参加しました。一方、エントリーシートは通ったが「面接」で不合格となったケースもありました。

また、東京開催の「合同説明会」で、同じ業界を目指す他県学生と知り合いになり、「情報交換の仲間&ライバル」として、各々の入社後も付き合いが続いたという者もいます。

こうした例を紹介したのは、近年、企業側がこんな視点を持っているからです(「静岡新聞」2015.9.22・『“成長の資質”を見極め』から引用)。例えば、地元を代表する物流企業では、「面接で、『どんな就活しているの?』と尋ねる。独自に工夫や勉強を重ねる学生は、『仕事でも課題解決力が高い』...」。こうして、学生が「成長のバネ」になる資質を持っているかを評価しています。

次年度就活に臨む在校生の皆さん、上述した企業の視点や「就活成功の3カ条」を理解・銘記し、先輩たちに続けてください。本学・産学連携プログラムの「インターンシップ」を活用するのはもちろんのこと、加えて、オープン・エントリーのインターンや各種「就活準備イベント」の情報も主体的に収集しチャレンジしていく、学外にも友人(いわゆる「自分が成長できるライバル」)をつくるなど、それぞれの工夫で積極的に活動してください。「就活を通じた成長」の先に、「内定」があります。